

土木学会コンクリート委員会 委員会活動報告

(2013年9月～2014年8月)

第一種委員会活動状況の報告

100 コンクリート委員会・コンクリート常任委員会

(1) 委員会構成

委員長：二羽淳一郎，幹事長：岩波光保，常任委員43名，委員23名

(2) 活動状況

- 1) 2013年度第1回委員会兼2013年度第3回常任委員会（2013年9月3日，土木学会講堂）
 - ・コンクリート委員会・常任委員会，第1種～第3種各小委員会の活動内容が報告された。
 - ・示方書維持管理編の改訂資料に関して審議が行われ，発刊が承認された。
 - ・示方書ダムコンクリート編の改訂資料内容に関して審議が行われ，有害鉱物の判定や凍結融解抵抗性の評価方法などについて議論があった。最終的に，発刊が承認された。
 - ・津波による橋梁構造物に及ぼす波力の評価に関する調査研究小委員会の報告書の内容に関して審議が行われ，コンクリートライブラーとして発刊することが承認された。
 - ・2013年度のコンクリート委員会の予算案について審議が行われ，承認された。
- 2) 2013年度第4回常任委員会（2013年11月29日，東京）
 - ・2012年，2013年のコンクリート標準示方書の改訂作業がすべて終了し，講習会が開催されたことが報告された。
 - ・コンクリートのあと施工アンカー設計施工指針（案）に関して審議が行われ，常時引張が作用している箇所の取扱いなどの適用範囲の明確化，他機関の指針類との整合性，長期耐久性の確保などについて議論があった。指針（案）の内容について，意見照会の依頼があった。
 - ・土木学会の社会インフラ維持管理・更新の重点課題検討特別委員会が作成中の社会インフラのメンテナンスのためのテキストブックについて議論があった。
 - ・ベトナムで開催されたジョイントセミナーについて報告があった。
- 3) 2013年度第5回常任委員会（2014年1月22日，東京）
 - ・コンクリートのあと施工アンカー設計施工指針（案）に関して審議が行われ，常時引張が作用している箇所の取扱いなどについて確認があり，最終的にコンクリートライブラーとして発刊することが承認された。
 - ・コンクリートトンネル構造物耐火工設計施工指針（仮称）（案）に関して審議が行われ，設計施工指針としての位置づけ，設計火災曲線の考え方，火害後の維持管理などについて議論があった。指針（案）の内容について，意見照会の依頼があった。
 - ・がれきの処分と有効利用に関する調査研究小委員会の報告書「災害廃棄物の処分と有効利用」の内容に関して審議が行われ，完成後のコンクリート構造物の性能との関連などについて議論があった。報

告書の内容について、意見照会の依頼があった。

- ・3種委員会の申し合わせ事項の修正が提案され、承認された。
 - ・土木学会重点研究課題への応募内容および次年度の全国大会での研究討論会の企画内容について議論があった。
 - ・100周年記念出版誌の編集進捗状況が報告され、引き続きの協力依頼がなされた。
- 4) 2013年度第6回常任委員会（2014年3月18日、東京）
- ・3種委員会として、コンクリートにおける水の挙動研究小委員会（委員長：大下英吉）の新規設置が承認された。
 - ・トンネル構造物のコンクリートに対する耐火工設計施工指針（案）に関して審議が行われ、性能照査を省略できる判断基準、過去の火災による被害事例などについて議論があり、必要な修正を行うことを条件に、コンクリートライブラリーとして発刊することが承認された。
 - ・がれきの処分と有効利用に関する調査研究小委員会の報告書「災害廃棄物の処分と有効利用」に関して審議が行われ、成果の適用範囲などについて確認があり、最終的にコンクリートライブラリーとして発刊することが承認された。

5) 2014年度第1回常任委員会（2014年5月13日、東京）

- ・示方書改訂小委員会および規準関連小委員会の改組が提案され、承認された。委員長にはそれぞれ宮川豊章委員、久田真委員が務めることが承認された。
- ・福島第一原子力発電所の汚染水対策への貢献を目的に、2種委員会として、汚染水貯蔵用PCタンク検討委員会（委員長：梅原秀哲）の新規設置が承認された。
- ・3種委員会として、コンクリート構造物の品質確保小委員会（委員長：田村隆弘）の新規設置が承認された。
- ・次年度の全国大会での研究討論会の企画内容について議論があった。
- ・土木学会の社会インフラ維持管理・更新の重点課題検討特別委員会が作成中の社会インフラのメンテナンスのためのテキストブックの目次構成が説明され、意見照会が依頼された。
- ・大河津可動堰記録保存検討委員会の報告書は、当初、コンクリートライブラリーとして発刊する予定であったが、土木学会100周年記念出版の一環として出版することが報告された。
- ・委員会の議事終了後、次の話題提供があった
 - (a)「九州地方におけるコンクリート構造物の品質確保に対する取り組みについて」（武若委員）
 - (b)「北海道における調査研究活動」（横田委員）、「札幌建設業協会で作成した橋梁の新しい点検・診断法」（佐藤委員）

6) 2014年度第2回常任委員会（2014年7月8日、高松）

- ・100周年記念出版誌「日本が世界に誇るコンクリート技術」の編集進捗状況が報告され、11月発刊までのスケジュールが紹介された。
- ・示方書改訂小委員会および規準関連小委員会の委員構成が提案され、承認された。
- ・2014年度のコンクリート委員会の予算案について審議が行われ、承認された。
- ・2013年度活動評価の結果および2014年度調査研究費予算配分が報告された。これに関連して、国際関連小委員会のNEWSLETTERの取組みなども積極的にアピールしていくことが確認された。
- ・委員会の議事終了後、次の話題提供があった
 - (a)「スラグの可能性」（綾野委員）
 - (b)「四国の生コン事情」（橋本委員）

101 示方書改訂小委員会（旧）

(1) 委員会構成

委員長：丸山久一，副委員長：宮川豊章，幹事長：岸利治，構成員数 44 名（2010 年 5 月～）

運営部会，共通編部会，設計編部会，施工編部会，維持管理編部会，ダムコンクリート編部会の 6 部会を設置して活動を行ってきた。

(2) 活動目的

2012 年制定版コンクリート標準示方書の刊行に向けて活動を行う。

(3) 活動報告

2012 年制定版として，基本原則編，設計編，施工編を 2012 年 3 月に発刊し，本部主催の講習会を東京（3 月 21, 22 日）と大阪（4 月 17, 18 日）で開催した。その後，維持管理編とダムコンクリート編を 2013 年 10 月に発刊し，本部主催の講習会を東京（10 月 11 日）と大阪（10 月 16 日）で開催した。これをもってこの期の委員会活動を終了した。次回の改訂に向けて，新たな委員会構成の下で活動が開始される。

101 示方書改訂小委員会（新）

(1) 委員会構成

委員長：宮川豊章，幹事長：下村 匠，構成員数 24 名（うちアドバイザ 2 名），発足：2014 年 5 月

(2) 活動目的

2017 年制定版コンクリート標準示方書の刊行に向けて活動を行う。

(3) 活動状況と今後の予定

① 現在までの活動

- ・2014 年 5 月 13 日コンクリート常任委員会において委員会設置承認，2014 年 7 月 8 日コンクリート常任委員会において委員構成が承認された後，2014 年 8 月 28 日に第 1 回委員会を開催した。
- ・現行の 2012 年制定コンクリート標準示方書の改訂にあたった各編部会，および示方書連絡調整小委員会より，次期示方書における課題を収集した。
- ・次期 2017 年制定版コンクリート標準示方書の大枠の方針，改訂作業の進め方について，検討を開始した。

② 今後の活動予定

- ・2015 年度より各編部会を設置して具体的な改訂作業を開始できるように，2014 年度内は現行委員構成により，課題の抽出，改訂方針の策定を行う。

102 規準関連小委員会

(1) 委員会構成

委員長：鎌田敏郎，幹事長：上野敦，構成員数：31 名，発足：2009 年 5 月～

委員長：久田真，幹事長：横関康祐，構成員数：13 名，発足：2014 年 7 月～

(2) 活動目的

土木学会規準の制定および見直しを行うとともに，コンクリート関連の JIS 規格の制定および見直しの情報を収集し，コンクリート標準示方書「規準編」の改訂を行う。

(3) 活動状況と今後の予定

① 現在までの活動状況

- ・2013年9月～2014年8月の間では、1回の主査幹事会、2回の全体委員会を開催した。
- ・2013年制定「規準編」発刊のための準備として、新規の土木学会規準の審議、改正される土木学会規準の審議、およびJIS規格の改正／制定状況の調査を行った。
- ・2013年11月13日に、土木学会講堂にて、河野広隆先生による特別講演を含め、「2013年制定〔規準編〕」の発刊に伴う講習会を実施した。
- ・2013年度で、これまでの体制での委員会活動を終了した。

② 今後の活動予定と終了予定時期

- ・現在は、新体制の委員会での活動方針について検討を開始している。主に次期示方書改定に向けた構想を検討するとともに、現行指針に対する質問への回答、ISOなど関連規準からの意見照会に対応する予定。
- ・本委員会は、2015年6月までに終了する。

第二種委員会活動状況の報告

201 コンクリート教育研究小委員会

(1) 委員会構成

委員長：渡辺博志，幹事長：谷村幸裕，構成員数：13名，発足：2012年4月

(2) 活動目的

- ・本委員会は、コンクリート関連の業務に携る実務者、特に若手／中堅技術者の継続教育を目的とし、
基本的であるが重要なコンクリートの知識ならびに最新技術の情報提供のための活動を行ってきた。
- ・今年度は、若手／中堅技術者講習会の講習内容について検討を行う。

(3) 活動状況と今後の予定

① 若手／中堅技術者講習会の実施について

- ・技術者の疑問の傾向をふまえ、疑間に答える形の講習資料を作成した。作成した資料を用いて①材料、
②施工、③設計、④試験法の各分野で構成する講習会を2013年12月、2014年2月の2回、土木学会
講堂において開催した。

② 今後の若手／中堅技術者講習会の講習内容について

- ・昨年度実施した講習会について、同じ主旨で異なる内容を盛り込むか、あるいは土木学会コンクリー
ト標準示方書改定を受けて、示方書解説の内容にするか、小委員会で検討を行い講習会の開催方針を
決定していく。

205 土木材料実験指導書編集小委員会

(1) 委員会構成

委員長：橋本親典、幹事長：上野敦、構成員数：9名、発足：2014年5月

(2) 活動目的

土木材料実験指導書の改訂

(3) 活動状況と今後の予定

① 現在までの活動状況

2013年9月以降は、平成26年2月に発刊した、2013年改訂版土木材料実験指導書（第1版）の誤字
脱字および記載の誤りなどの抽出を行い、正誤表を作成するとともに、2014年2月に発刊した第2版へ
反映させた。

2013年改訂版は、それまでの実験指導書に、新設第7章として「コンクリート構造物の非破壊試験」
を追加し、第2版では、データシートのpdfを土木学会の小委員会HPに掲載し、自由にダウンロード
できることを実験指導書の中に記載した。

2014年8月23日に第1回委員会を開催し、2015年改訂版の方向性について検討した。

② 今後の活動予定

今年度は、2015年改訂版の出版に向けて構成の検討および編集作業を行うため、12月上旬に第2回
編集小委員会を開催する予定である。2015年改訂版は、2015年2月末に発刊予定である。

207 國際関連小委員会

(1) 委員会構成

委員長：中村光，幹事長：鎌田敏郎，構成員数：15名，発足：2009年6月

(2) 活動目的

国際関連小委員会の活動目的は、コンクリート委員会の国際展開に関する事項について検討・実施することである。

(3) 活動状況と今後の予定

① 現在までの活動状況

- ・年4回の委員会を実施。
- ・Newsletter の編集 (No.35 ('14 Nov), No.36 ('14 Jan), No.37 ('14 April), No.38 ('14 July)を発刊). Newsletter の改善 (バックナンバーの充実, 1年間の記事が分かる総集ページの作成)
- ・示方書の国際展開
 - +2013年9月19～20日, ベトナム・ホーチミンで示方書講習会を開催 (土木学会学術交流基金)
 - +示方書の内容を紹介するホームページの作成
- ・モンゴルの設計基準策定への協力 (モンゴル側からの動きがなく活動休止中)

② 今後の活動予定

- ・年4回のNewsletter の発行. Newsletter の送付数増加や内容の充実の検討。
- ・ベトナムでの示方書講習会の継続的実施 (2014年度は, 委員会経費及び, ①日本フライアッシュ協会, ②鉄鋼スラグ協会, ③BASF ジャパンから, 講師派遣 (派遣旅費含む) または費用支援により実施)
- ・示方書の海外講習会の実施 (ベトナム以外のアジア諸国でのコンクリート標準示方書の講習会の可能性を検討, 標準示方書のアジア圏諸国におけるデファクトスタンダード化を目指す)
- ・示方書の国際展開作業 (示方書2012年版の特徴や改訂のポイントを紹介するwebページの充実)
- ・海外での講習会で使用された土木学会コンクリート委員会関連の英文スライドの有効活用, 一元管理の仕組みについて検討する。

221 津波による橋梁構造物に及ぼす波力の評価に関する調査研究小委員会

(1) 委員会構成

委員長：丸山久一，幹事長：細田暁，委員：25名，協力委員：2名，幹事：4名，発足：2011年8月

(2) 活動目的

東日本大震災における津波による橋梁の流失等の被害状況を調査し, 数値解析や実験等により津波による作用と構造物の抵抗メカニズムを明らかにする。これらを通じて, 今後の橋梁構造物の設計における津波の波力の評価に活かせる成果を得ることを目的とする。

(3) 活動報告

- ・2012年6月26日に土木学会講堂で中間報告会を実施した。
- ・2013年11月7日に東京大学浅野キャンパス武田ホールにて, 委員会報告会とシンポジウムを実施するとともに, コンクリートライブラリーとシンポジウム論文集を発刊した。
- ・2013年11月7日の報告会で委員会活動を終了した。今後は, 新たな委員会構成の下で, この成果を示方書に取り入れるべく検討する予定である。

223 震災がれきの処分と有効利用に関する調査研究小委員会

(1) 委員会構成

委員長：久田真，幹事長：小林孝一，幹事：丸屋剛，河井正，委員：31名，発足：2012年6月

(2) 活動目的

東日本大震災で発生したコンクリートがれき、津波堆積土砂、混合がれきなどを焼却した後に排出されるがれき焼却残渣については膨大な量である。これらの災害廃棄物への対応としては、各自治体とも、分別し、有効活用したいとの要望がある。最終処分量を抑制させるためにも、災害廃棄物を有効利用する技術を開発することは極めて重要な課題であるが、土木工学に関する技術や知見の中には、災害廃棄物の有効利用に応用可能な技術が多数存在している。そこで災害廃棄物のうち、①コンクリートがれき、②津波堆積土砂、および、③がれき焼却残渣を対象として、これらの有効利用技術に関する調査研究を行い、技術的な側面から被災地の復興に資する情報を整理するとともに、本委員会の成果が、近い将来の発災が懸念される南海トラフ地震をはじめとする激甚災害が生じたときに、災害廃棄物の処理を円滑に進める参考となることを目的とした活動を行った。

(3) 活動報告

本委員会は、土木学会・平成24年度重点研究課題として採択されたものであり、コンクリート委員会ならび地盤工学委員会の合同委員会として設置された。重点研究課題に対応する活動は2012年度末で終了したが、コンクリート委員会から2013年度末までの1年間の活動期間延長が認められ、合計2年間の任期中に9回の委員会を開催し、上記の目標を達成するために活発な活動を行った。

なお、2013年9月の土木学会全国大会（日本大学津田沼キャンパス）では、共通セッション「震災廃棄物の処理・有効利用」を主催した。

研究成果は「コンクリートライブラリー142 災害破棄物の処分と有効利用 -東日本大震災の記録と教訓-」として発刊し、成果報告会を2014年5月23日に東京（土木学会講堂）にて（委員を除く参加者57名）、同年7月18日に仙台（仙台市情報・産業プラザ）にて（同81名）開催した。

224 示方書連絡調整小委員会

(1) 委員会構成

委員長：佐藤靖彦、幹事長：秋山充良、構成員数：44名、発足：2013年7月8日

(2) 活動目的

委員会の主旨は、将来における土木学会コンクリート標準示方書の改訂に備え、問題点や課題の認識、改訂の方向性の検討、経緯の理解、議論や検討の素地づくり、などの連絡調整を図ることにある。以下の4つのWG構成のもと、短期・中期・長期の視点からそれぞれの課題を抽出し、議論を深めている。

WG1：主に基本原則、国内・国外展開に関わる内容を担当（主査：加藤佳孝、副主査：山本貴士）

WG2：主に設計・維持管理に関わる内容を担当（主査：斎藤成彦、副主査：牧剛史）

WG3：主に施工・規準に関わる内容を担当（主査：石田哲也、副主査：伊代田岳史）

WG4：事例検討（2012版示方書における改訂点が設計解に与える影響評価など）（主査：秋山充良）

(3) 活動状況と今後の予定

① 現在までの活動

2013年7月以降、2回の全体委員会、5回の拡大幹事会、およびWG1～WG4の各ワーキングをそれぞれ3回開催している。また、2012年版のコンクリート標準示方書について、エディトリアルチェックを全委員で分担して行い、一覧として提出した。

② 今後の活動予定

(a) コンクリート標準示方書の改訂、あるいは普及活動を行うにあたって、特に力を注ぐ必要があると思われる重点事項を7つほど列挙し、各項目について具体的な行動方針などを整理する。

(b) 各ワーキングにおいて、次回改訂のコンクリート標準示方書に反映すべき事項を整理する。

これら(a)と(b)の検討結果は、最終年度である今年度中に委員会報告書としてまとめ、ホームページ等を通して公開する予定である。

225 コンクリート構造物の安全確保のためのシステムに関する研究小委員会

(1) 委員会構成

委員長：鎌田敏郎、幹事長：国枝 稔、構成員数：21名、発足：2013年10月

(2) 活動目的

本委員会では、本体以外の附属物の損傷、劣化、当該のコンクリート構造物が他の構造物から受ける被害等々、構造物全体の安全性を確保するために必要なシステムについて検討していくものである。特に、示方書の適用範囲と安全確保との関係の観点、コンクリート以外の他分野の安全確保のためのシステムの観点、から調査、整理を行い、最終的に、コンクリート構造物の本体以外も含めた構造物全体の安全確保のために必要なシステムに関して、総合的に検討することを目的とする。

(3) 活動報告

① 現在までの活動

上記の目的を達成するために WG1 実態調査 WG（主査：三木 副査：山村）、WG2 リスク評価 WG（主査：大島 副査：服部）、WG3 対策 WG（示方書対応、システム普及）（主査：浅本 副査：秋山）の3つのWGを立ち上げ、全体委員会、幹事会およびWGを以下のように開催し活動を行っている。

<全体委員会>

第1回委員会 2013年10月11日（金）15時～17時30分 スクワール麹町にて 出席者：16名

- ・委員会での検討課題についての討議

第2回委員会 2014年4月11日（金）14時～17時00分 土木学会にて 出席者：18名

- ・WGでの活動内容の審議結果報告

第3回委員会 2014年9月19日（金）10時～13時 土木学会にて（予定）

- ・WGの活動報告、報告書内容についての審議、報告会の計画の立案

<幹事会>

第1回幹事会 2013年11月28日（木）15時～17時 大阪大学にて 出席者：7名

- ・WG設置に関する審議および活動内容たき台の作成

第2回幹事会 2014年5月16日（金）10時～13時 JR西日本会議室にて 出席者：7名

- ・WGでの審議状況の確認および報告書の取りまとめ方針の確認

<WG>

第1回実態調査 WG 2014年3月18日(火) 14時～17時 土木学会にて

第2回実態調査 WG 2014年5月9日（金）14時～17時 土木学会にて

第3回実態調査 WG 2014年5月16日（金）15時～17時 西日本高速道路会議室にて

第4回実態調査 WG 2014年8月4日（月）14時～17時 土木学会にて

第1回リスク評価 WG 2014年3月6日（木）13時～15時 土木学会にて

第2回リスク評価 WG 2014年5月22日（木）14時～16時30分 土木学会にて

第3回リスク評価 WG 2014年8月25日（月）14時～17時 土木学会にて

第1回対策 WG 2014年3月28日（火）10時～12時 土木学会にて

第2回対策WG 2014年6月16日（月）10時～12時 土木学会にて

第3回対策WG 2014年9月5日（金）15時～17時 スクワール麹町にて

② 今後の活動予定

9月に開催予定のWGにて報告書の目次案が提示されるため、目次案および内容についての審議を行う予定である。あわせて、報告会の計画を立案する予定である。

226 土木学会100周年記念出版編集小委員会

(1) 委員会構成

委員長：丸屋剛、幹事長：大内雅博、構成員数：10名、発足：2013年6月

(2) 活動目的

本委員会は、土木学会創立100周年事業実行委員会出版部会が企画する記念出版にコンクリート委員会から参加するために組織された小委員会である。

(3) 活動状況と今後の予定

① 出版内容

日本が世界に誇るコンクリート技術“Concrete Technology of Japan”的タイトルで、日本が世界に誇るコンクリート技術を国内外の技術者に日本が世界に誇るコンクリート技術を周知・理解してもらう内容とする。コンクリート技術を構造・設計、材料・施工、維持管理・環境・マネジメント、規準類の4分野に区分し、構造・設計20項目、材料・施工33項目、維持管理・環境・マネジメント16項目および規準類7項目の合計76項目の世界に誇るコンクリート技術で構成する。

② 編集作業工程

2014年8月末現在、ネイティブによる英文チェックが終了し、9月1日に印刷業者に原稿提出、版組み開始、9月中旬から下旬にかけて著者による最終チェックを行い、11月20日に発行の予定である。

227 コンクリート標準示方書に基づく数値解析認証小委員会

(1) 委員会構成

委員長：前川宏一、副委員長：中村光、幹事長：斎藤成彦、構成員数12名、発足：2013年7月

(2) 活動目的

依頼者より提出されたコンクリート構造物の数値解析結果が、土木学会コンクリート標準示方書〔設計編〕の規定を満足する方法で行われたものであるかどうかを検証し、認証する「数値解析認証制度」の、技術的側面の運営を行う。

(3) 活動状況と今後の予定

① 現在までの活動

・「数値解析認証制度」は土木学会推進機構の事業として設置されるので、機構と調整を図りながら、既存の「技術認証制度」を参考に、制度の枠組み、法務的側面、技術的側面、運営方法の検討を行った。

・2014年8月12日の小委員会において、制度、運営の流れについて打ち合わせを行い、ほぼ最終となる案を策定した。

② 今後の活動予定

・技術推進機構との最終調整を行った後、2014年10月をめどにHPやパンフレットにより制度を公開し、依頼の受付を開始する。

228 汚染水貯蔵用 PC タンク検討小委員会

(1) 委員会構成

委員長：梅原秀哲，幹事長：森拓也，構成員数：13名，発足2014年5月

(2) 活動目的

福島第一原子力発電所では、現在放射能汚染水貯蔵タンクとして鋼製タンクが採用されているが、将来へ向けてプレストレストコンクリート（以下、PC）タンクの実現可能性について検討を行う。

(3) 活動状況と今後の予定

① 現在までの活動状況

第1回小委員会 2014年5月30日（金），土木学会

第1回WG 2014年7月2日（木），土木学会

第2回小委員会 2014年7月29日（火），土木学会

現在、過去の地震によるPCタンクの損傷調査のとりまとめ、および要求性能を満足する設計条件の確認を実施している。

② 今後の活動予定

今後は、PCタンクの試設計を行ったのち、現地の状況を踏まえた施工実現性についても検討を進める予定である。

(委託) 第二種委員会活動状況の報告

272 大河津可動堰記録保存検討小委員会

(1) 委員会構成

委員長：丸山久一，副委員長：中井 祐，幹事長：佐伯竜彦，構成員数：24名（大河津旧可動堰の技術的・学術的価値を多面的に検討するため、委員の専門分野としては、河川工学、鋼構造学、コンクリート工学、歴史的構造物・土木史等からなっている），発足：2012年1月

(2) 活動目的

大河津可動堰の改築に伴い撤去となる旧可動堰は、建設当時の土木技術の英知を結集させた歴史的構造物であることから、その設計・施工技術・使用材料の性能等に関する具体的な技術的調査、並びに当時の設計思想等の学術的調査を実施し、可動堰の土木技術記録として取りまとめ、後世に継承することを目的とした。

(3) 活動状況と今後の予定

① 現在までの活動

2011年度は、旧可動堰撤去に際して行う調査項目をとりまとめた。

2012年度は、旧可動堰の撤去に伴い、各種現地計測および試料採取し、これらの結果の解析および採取試料を用いた試験を行い、報告書をとりまとめた。

2013年度は最終年度であることから、これまでの調査結果を総合して、旧可動堰の合理性を明らかにするとともに、残存させる個所の安全性を確認し、報告書としてまとめた。また、報告書の内容をオムニバス形式でまとめた「解体新書 大河津分水可動堰」を土木学会創立100周年記念出版物の一つとして出版した。

最近1年間の委員会等の開催は下記の通りである。

2013年度第1回幹事会：2013年10月10日

2013年度第1回委員会：2013年10月29日

2013年度第2回幹事会：2014年3月3日

2013年度第2回委員会：2014年3月10日

2013年度第3回幹事会：2014年3月19日

2013年度第4回幹事会：2014年6月4日

② 今後の活動予定と終了予定期

下記の予定で成果報告会を行う。

2014年9月30日 土木学会

2014年11月11日 アオーレ長岡

成果報告会の終了をもって、委員会活動を終了する。

271 あと施工アンカー小委員会

(1) 委員会構成

委員長：梅原秀哲，幹事長：中村光，構成員数：29名（アドバイザー2名、委託者側委員9名）

発足：2012年5月（1年間の委託期間であったが、笛子トンネルの事故調査結果を受けた指針案を作成するため、2014年3月まで委託期間を延長した。）

(2) 活動目的

本委員会は、構造物・非構造物を問わず土木分野において広く利用されているあと施工アンカーの性能評価、設計、施工ならびに維持管理に関する指針を制定することを目的とする。

(3) 活動報告

2012年度からの活動期間において、全体委員会を8回、幹事会を13回開催し、笹子トンネルの事故調査結果を踏まえた、コンクリートのあと施工アンカーに関する設計・施工指針を本編と標準の形式で作成した。指針案は、コンクリートライブラリー141号「コンクリートのあと施工アンカー工法に関する設計・施工指針(案)」として2014年3月に発刊した。なお、コンクリートライブラリーでは、指針(案)に加え、指針(案)に基づく設計例や関連する事項を参考資料として取りまとめた。

発刊とともに、2014年3月31日に講習会（参加者：153名）を実施し、委員会活動を終了した。

270 コンクリートトンネル構造物の耐火技術に関する研究小委員会

(1) 委員会構成

委員長：岩波光保、幹事長：大島義信、構成員数：25名、発足：2012年6月

(2) 活動目的

コンクリート委員会では、2004年に「コンクリートの耐火技術研究小（327）委員会」を設置し、耐火工について一定の成果を得ている。この研究成果を基にして多くの耐火工の設計と耐火工事が実施されてきたが、同時に次に示すような新たな課題が設計者ならびに施工者、耐火材製造者から抽出されており、さらなる技術研究の必要性が望まれていた。本委員会では、これら課題の検討を行うとともに、既存の成果も踏まえ、トンネル構造物のコンクリートに対する耐火工設計施工指針（案）を策定することを目的とした。

(3) 活動報告

本委員会は2014年3月末をもって活動を終了している。今期は、委員会：4回（2013年度：1回、2014年度：3回）、幹事会：6回（2013年度：3回、2014年度：3回）を開催した。委員会では、トンネル構造物のコンクリートに対する耐火工に関して、トンネルの重要度、利用条件、構造特性、材料特性などの観点から適切な耐火工の種類を選定し、必要な要求性能を満足するよう設計、施工、維持管理するための要点について討議が行われ、指針案としてまとめられた。また、火害を受けたコンクリートの物質侵入抵抗性に関する実験を行い、その成果も指針案に盛り込まれた。その後、2014年6月に指針案をライブラリーとして発刊し、同年6月3日には、指針案に関する講習会を実施している。なお、指針案は英文化され、委員会内で共有化を行っている。講習会では、指針案各章に関する解説を行うとともに、トンネル耐火工の実務例として首都高の土橋氏にご講演頂いたほか、建築火災の研究事例として東京理科大の辻本氏にご講演頂いた。講習会参加者は80名であった。以下に指針案のタイトルと目次を示す。

コンクリートライブラリー143

「トンネル構造物のコンクリートに対する耐火工設計施工指針（案）」 目次

1章 総則 1.1 一般 1.2 適用の範囲 1.3 用語の定義	5章 耐火工の施工 5.1 一般 5.2 現地調査 5.3 施工 5.4 品質管理 5.5 検査 5.6 施工記録
2章 耐火工の目的と要求性能 2.1 耐火工の目的と必要性 2.2 耐火工の要求性能	6章 耐火工の維持管理

3章 耐火工の種類	6.1 一般
3.1 耐火工の種類	6.2 火害を受けた後の維持管理
4章 耐火工の設計および照査	6.3 診断
4.1 一般	6.4 補修・補強
4.2 耐火工の選定	6.5 補修・補強後の耐火工の維持管理
4.3 耐火工の設置範囲の設定	6.6 記録
4.4 耐火工の諸元の設定	
4.5 性能照査	参考資料編
4.6 構造細目	参考資料 A 簡易試験法
	参考資料 B 耐火工施工実績集
	参考資料 C 技術資料集

269 非鉄スラグ骨材コンクリート研究小委員会

(1) 委員会構成

委員長：宇治公隆，幹事長：佐伯竜彦，構成員数：25名，発足：2013年9月

(2) 活動目的

JIS A 5011 のコンクリート用スラグ骨材－第2部 フェロニッケルスラグ骨材、第3部 銅スラグ骨材（2015年改正予定）の改正に合わせて、「非鉄スラグ骨材を用いたコンクリートの設計・施工指針（第一部 フェロニッケルスラグ骨材、第二部 銅スラグ骨材）」を作成することとする。

(3) 活動状況と今後の予定

① 現在までの活動

2013年9月に発足後、全体委員会（製造施設の見学を含む）と各WG（設計WG、材料配合WG、製造施工WG、技術資料WG）を開催し、指針の内容を審議中である。

現在までの委員会の開催は下記の通りである。

2013年度第1回委員会：2013年9月30日

2013年度第2回委員会：2013年12月12日（八戸市において開催）

2013年度第3回委員会：2014年3月27-28日（新居浜市において開催）

2014年度第1回設計WG：2014年6月19日

2014年度第2回設計WG：2014年7月16日

2014年度第1回技術資料WG：2014年7月31日

2014年度第1回製造施工WG：2014年8月8日

2014年度第1回材料配合WG：2014年8月20日

2014年度第3回設計WG：2014年9月2日

2014年度第2回製造施工WG：2014年9月5日

2014年度第2回技術資料WG：2014年9月10日

② 今後の活動予定と終了予定期

終了予定期は2016年3月であり、新たな骨材であるフェロニッケルスラグ粗骨材に関する記載、環境安全品質への対応、前回（1998年2月）以降の新たな知見の取込み等により、設計・施工指針を作成の上、講習会を行う予定である。

土木学会コンクリート委員会 委員会活動報告

(2013年9月～2014年8月)

第三種委員会活動状況の報告

340 鉄筋コンクリート設計システム研究小委員会（第2期）

(1) 委員会構成

委員長：渡辺忠朋，幹事：斎藤成彦，構成員数：40名，発足：2011年11月

(2) 活動目的

本小委員会では、鉄筋コンクリート設計システムのあるべき姿を探求することを究極の目的として、(1)従来の設計解である現存する鉄筋コンクリート構造物と、その制約条件たる構造・配筋詳細を含む設計法の変遷を調査し、(2)近未来の為の鉄筋コンクリート構造物の設計法と構造細目の照査化を含む照査法の検討などによる構造システム構築へ向けた課題抽出と検討を行う。

(3) 活動報告

前回報告時（2013年9月）からの活動状況は以下の通り。

第10回全体委員会：2013年8月28日 東京，参加者15名

第11回全体委員会：2013年10月25日 東京，参加者19名

第12回全体委員会：2013年12月6日 東京，参加者23名

第2期の活動として、2011年11月～2013年12月までの間に計12回の全体委員会を開催した。委員間で共通理解が持てるように、WGを設けずに全体で会議を行い、成果報告書の作成段階において、いくつかの小グループに分かれて執筆を行った。成果報告書には、要求性能、設計、照査、施工、維持管理の将来像とそれらを包括した鉄筋コンクリート設計システムのあるべき姿についてとりまとめた。

2014年7月16日に土木学会講堂において、社会基盤施設の設計と維持管理の連携システムの構築に関する小委員会（344委員会）と合同で成果報告会を行った。参加者は80名弱で、340委員会のプログラムは以下の通り。

- ① 委員会の概要、設計（渡辺忠朋委員長）
- ② 材料設計（川端雄一郎委員）
- ③ 作用（高橋良輔委員）
- ④ 照査（渡辺健委員）
- ⑤ 施工（斎藤隆委員）
- ⑥ 維持管理、鉄筋コンクリート設計システム（斎藤成彦幹事長）

341 施工性能にもとづくコンクリートの照査・検査システム研究小委員会（第2期）

(1) 委員会構成

委員長：橋本親典，幹事長：坂田昇，副幹事長：浦野真次，構成員数：35名，活動期間：2011年10

月～2013年9月

(2) 活動目的

フレッシュコンクリートの施工性能を現場で対応できる簡易な試験方法で、照査と検査をすることができるシステムを構築することである。スランプの低下によって時間的・空間的に変化する流動性と材料分離抵抗性を、実験室のみならず現場の荷卸し時点においても照査・検査できるシステムの構築を目指す。

(3) 活動報告

2013年11月26日(火)，土木学会講堂において，コンクリート委員会「コンクリートの施工性能の照査・検査システム研究小委員会(341委員会，委員長：橋本親典 徳島大学教授)」の第2期の成果報告会と関連するテーマの論文発表を併せたシンポジウムを開催した。有料参加者は84名(正会員62名，非会員11名，学生会員8名，学生非会員3名)で，委員会委員が約20名出席したので，合計100名を超えた。

また，2014年9月19日(金)に，高松のホテルパールガーデンにおいて，土木学会四国支部主催，JCI四国支部共催で，「コンクリートの施工性能の照査・検査システム」研究小委員会第2期委員会報告に関する四国地区講習会を開催する予定である。

342 材料劣化が生じるコンクリート構造物の維持管理優先度研究小委員会(第2期)

(1) 委員会構成

委員長：宮里心一，幹事長：山本貴士，幹事：小林孝一，高橋良輔，渡辺健，構成員数：40名，活動期間：2013年8月～

(2) 活動目的

本委員会は，塩害などで経年劣化したコンクリート構造物に対する，点検・対策の優先度を工学的に決定する技術および枠組みを構築することを目的とする。第1期では，作用強度および劣化速度評価に基づく優先度，保有性能評価に基づく優先度，優先度評価に必要な点検・調査技術，優先度決定システム，について検討を行った。第2期では，優先度決定に必要な点検から性能評価に至る診断技術のより発展的な議論とともに，具体的な複数の橋梁構造物からなる路線を想定したケーススタディーのもとで，優先度決定の技術的手順や問題点の検討を行う。

(3) 活動状況と今後の予定

① 現在までの活動

第1回幹事会：2013年11月8日 京都テルサ，参加者5名

第2回全体委員会：2013年11月25日 京都テルサ(第57回日本学術会議材料工学連合講演会オーガナイズドセッションと併催)，参加者21名

第1回ケーススタディーWG(WG3)：2014年3月19日 京都大学，参加者7名

第2回ケーススタディーWG(WG3)：2014年4月11日 サムティ フェイム新大阪，参加者7名

第3回全体委員会：2014年4月18日 土木学会，参加者21名

第1回点検・性能評価(WG1, WG2) 合同WG：2014年5月15日 土木学会，参加者14名

第3回ケーススタディーWG(WG3)：2014年5月15日 土木学会，参加者10名

第4回ケーススタディーWG(WG3)：2014年7月4日 土木学会，参加者9名

第2回点検・性能評価(WG1, WG2) 合同WG：2014年7月24日 土木学会，参加者14名

現在までに，全体委員会を3回，点検WG(WG1)および性能評価WG(WG2)の合同WGを2回，

ケーススタディーWG (WG3) を4回開催した。WG1 および WG2 の合同WGでは、優先度決定に必要な点検から性能評価に至る診断技術のより発展的な議論として、点検データの評価ツールへの入力に関する技術的課題を検討している。また、非破壊を含めた点検やモニタリング技術について、構造物群の規模や状態に応じた使い方を整理することを念頭においている。一方、WG3 では、いくつかのコンクリート橋からなる架空の路線を設定し、これらの橋梁に対して、劣化環境、劣化の状態あるいは劣化の進行に関する点検データを与え、診断結果をもとにした優先度決定の技術的手順と問題点を明らかにすることを目的としている。

② 今後の活動予定

第4回全体委員会を2014年9月18日（土木学会）に予定しており、各WGの進捗を確認した上で、点検・性能評価WGとケーススタディーWGの協働可能性について検討する。また、昨年に引き続き、「コンクリート構造物の劣化および調査の事例」をテーマに扱う「第58回日本学術会議材料工学連合講演会（2014年10月27日、28日（京都）」のオーガナイズドセッション（オーガナイザー：小林孝一（岐阜大）、中村成春（大工大）、山本貴士（京大））と連携して委員会あるいはWGを予定する。

344 コンクリート構造物の設計と維持管理の連係による性能確保システム研究小委員会

(1) 委員会構成

委員長：横田弘、幹事：佐藤靖彦、服部篤史、構成員数：17名、発足：2012年4月（再開）

(2) 活動目的

設計と維持管理の連係を密に行うための方策について研究し、構造物のライフサイクルを通して性能の確保をするためのあるべき姿を探求することを目的とする。①耐久設計の情報を施工段階を経て維持管理に伝達する手法の構築、②既存構造物の性能評価法、③点検診断結果等に基づく性能確保シナリオの修正法の構築、④設計・施工・維持管理を密に連係させた基準類の整備方策の検討、の各項目に対し、220小委員会の活動の成果として不十分であった点などを中心に研究を進める。

(3) 活動報告

① 現在までの活動状況

昨年9月から本年8月までの活動状況は次のとおりである。

<全体委員会>

第5回委員会 2013年11月22日（金）、土木学会、5名出席

第6回委員会 2014年2月25日（火）、土木学会、8名出席

主に報告書のとりまとめ方針および関連するテーマに対して議論、情報交換を行った。第6回委員会で目次構成および執筆分担を決定した後は、メール審議にて報告書の作成を進め、コンクリート技術シリーズ105「コンクリート構造物の設計と維持管理の連係による性能確保システム研究小委員会成果報告書」をとりまとめた。

<成果報告会>

2014年7月16日（水）12:30～17:30、土木学会講堂にて、340小委員会と合同で成果報告会を開催した。参加者数は78名であった。報告会の内容は次のとおりである。

- 1) 開会挨拶および各事業体等での設計と維持管理に連係を中心とした実態分析（横田委員長）
- 2) 国内外における設計と維持管理の連係の現状（佐藤幹事）
- 3) 設計と維持管理における構造物の性能評価（渡辺委員）

② 今後の活動予定

成果報告会の開催をもって活動を終了した。

345 セメント系構築物と周辺地盤の化学的相互作用研究小委員会

(1) 委員会構成

委員長：石田哲也，幹事長：半井健一郎，構成員数：55名，発足：2011年10月

(2) 活動目的

コンクリート工学と地盤工学の境界領域に焦点をあて、コンクリート構造物やセメント改良体などのセメント系構築物と周辺地盤の境界部における化学的相互作用を考慮した統合評価の可能性について検討を行う。従来まで別々の分野として発展してきた学術の垣根を取り払い、工学上の課題整理を行うとともに、新しい学問領域の創出を目指す。

(3) 活動状況と今後の予定

① 現在までの活動

<全体委員会>

以下の全体委員会を開催し、コンクリート分野のみならず、地盤や原子力分野からの委員の参加によって、分野横断的な議論を行い、成果を取りまとめた。

第8回 2013年9月12日 土木学会にて、23名出席

第9回 2013年11月22日 東京大学にて、24名出席

第10回（最終回） 2014年2月27日 土木学会にて、26名出席

<WG活動>

WG1：固化・不溶化WG（WG主査：半井、WG幹事：乾） コンクリートと地盤材料の中間的なセメント系材料の長期耐久性評価として、セメント改良土・固化処理土の長期力学安定性、セメント固化・不溶化した汚染土壤における重金属の封じ込め性能などを分析した。

WG2：化学的浸食WG（WG主査：細川、WG幹事：齋藤） 周辺地盤の化学的作用を受けたコンクリート構造物の耐久性評価（その1）として、土壤由来の酸および硫酸塩による地中コンクリート構造物の劣化進行などに関する検討を行った。

WG3：超長期耐久性WG（WG主査：蔵重、WG幹事：芳賀） 周辺地盤の化学的作用を受けたコンクリート構造物の耐久性評価（その2）として、放射性廃棄物処分施設の人工バリアにおける地盤材料（粘土）とセメント系材料の長期化学的相互作用などの検討を行った。

<報告会>

次の内容で報告会を実施し、合計130名（会員：82名、非会員：35名、学生：13名）の参加を得た。

10時00分～10時10分 開会挨拶、趣旨説明

10時10分～12時00分 委員会報告（第1編～第3編）

13時00分～13時50分 委員会報告（第4編～第5編）

14時00分～15時00分 基調講演（2件）

・坂井悦郎（東京工業大学）「AFm相によるヨウ化物イオンの固定と処分施設用セメント系材料の提案」

・小峯秀雄（早稲田大学）「放射性廃棄物処分におけるベントナイト系緩衝材の膨潤特性・透水特性に関する化学的アプローチ」

15時10分～17時40分 シンポジウム論文発表<招待講演3件（以下）、一般講演6件>

・肴倉宏史（国立環境研究所）「循環資材のコンクリートや地盤への

利用と環境安全品質」

- ・大脇英司（大成建設）「化学的耐久性に優れるコンクリートの開発事例」
- ・佐藤努（北海道大学）「セメントーベントナイトおよび鉄鋼スラグ－土壤相互作用の地球化学反応モデリング」

17時40分～17時45分 閉会挨拶

② 今後の活動予定

今回の活動の成果と課題を踏まえ、第二期目の活動を計画する。

346 繊維補強コンクリートの構造利用研究小委員会

(1) 委員会構成

委員長：内田裕市、幹事長：国枝稔、構成員数：36名、発足：2012年11月

(2) 活動目的

従来型の繊維補強コンクリートから最近の繊維補強セメント複合材までを対象として、これらを構造利用するための設計法、試験方法ならびに耐久性について検討する。

(3) 活動状況と今後の予定

① 昨年9月以降の活動

<全体委員会>

第4回委員会 2013年9月26日（木）、土木学会、24名

- ・委員からの話題提供と討議

第5回委員会 2014年4月3日（木）、土木学会、27名

- ・委員からの話題提供と討議
- ・WGの設置と活動内容についての討議

第6回委員会（WG、全体委員会） 2014年6月19日（木）、土木学会、27名

- ・WGでの検討

第7回委員会（WG、全体委員会） 2014年8月19日（火）、土木学会、28名

- ・WGでの検討

<WGでの検討内容>

WG1：構造設計・施工

- ・既往の設計・施工規準類の調査
- ・構造利用の実績調査
- ・今後の課題についての検討

WG2：耐久性

- ・要求される耐久性に関する検討
- ・繊維単体、複合材の耐久性、および連続鋼材の腐食に関する調査
- ・時間依存特性（クリープ、疲労）に関する調査
- ・耐久性照査（ひび割れ）の検討
- ・今後の長期試験の検討

WG3：試験法

- ・既往の試験法の調査（FRC,SHCC,UFC）

- ・合成繊維を対象とした試験法の検討
- ・繊維の配向に関する試験法の検討

②今後の予定

2か月に1回程度のペースでWGおよび全体委員会を開催し(次回10月22日),今年度中を目途に報告書をまとめることとし、4月以降に報告会を開催する。

347 鉄筋コンクリート構造の疲労破壊研究小委員会

(1) 委員会構成

委員長：岩城一郎，副委員長：佐藤靖彦，幹事長：土屋智史，幹事：子田康弘，田中泰司，藤山知加子，構成員数：40名，発足：2013年4月

(2) 活動目的

本小委員会では、鉄筋コンクリート構造の疲労破壊機構の調査・研究を行うとともに、現在および近未来に相応しい、新設・既設構造物に対する疲労設計法と点検・管理手法に関する体系的な議論を実施することを目指す。

(3) 活動状況と今後の予定

① 現在までの活動

<全体委員会, 幹事会>

昨年9月以降、全体委員会を3回、主査幹事会を1回開催した。

第3回全体委員会 2013年10月28日、寒地土木研究所、参加人数24名

第4回全体委員会 2014年5月28日、土木学会、参加人数22名

第5回全体委員会 2014年7月23日、日本大学、参加人数19名

第2回主査幹事会 2014年5月2日、日本大学、参加人数5名

<勉強会>

WG設置に先立ち、2013年度の1年間、「疲労の現象理解やメカニズムに関する勉強会1(担当幹事:藤山)」と「(疲労や環境作用に対する)長寿命化を達成するための性能評価システムの構築に関する勉強会2(担当幹事:田中)」を設置し、オブザーバー参加を含む多数の出席者のもと、各3回ずつ勉強会を開催した。

<WG活動>

勉強会の内容を踏まえ、2014年度よりWGを設置し、各WGを1回ずつ開催した。

WG1(機構解説WG、主査:藤山)：昨今の国内外の材料の疲労に関する知見を整理し、材料と構造・部材の形状や境界条件によらない疲労破壊現象について理解を深め、機構の解説を目的とする。

WG2(性能評価WG、主査:田中)：疲労により損傷を受ける床版を主対象に、長寿命化を達成するための性能評価システムの構築を行うことを目的とする。新設の床版の耐疲労性に対する材料・設計・施工面からの合理化・高性能化技術の提案と、既設RC床版に対する耐疲労性の観点からの点検、計測、診断、補修・補強技術の提案を行う。

②今後の予定

2014年度中に、全体委員会を2回、WG活動は各4回、実施予定である。なお、2015年度前半に報告会あるいはシンポジウムを開催することを想定している。

348 塩害環境の定量評価に関する研究小委員会

(1) 委員会構成

委員長：佐伯竜彦，幹事長：富山潤，構成員数：27名，発足：2013年5月

(2) 活動目的

飛来塩分環境および凍結防止剤散布環境における塩化物イオン浸透と鋼材腐食を対象とし、時間的・空間的に変動する環境条件の合理的な評価方法の確立に資することを目的として、塩害環境条件の評価手法の現状と問題点を整理し、るべき方向性について議論する。

(3) 活動状況と今後の予定

① 現在までの活動

委員会の開催は下記の通りであり、各委員からの話題提供、情報交換、具体的な活動方針に関する議論を行っている。

2013年度第1回委員会：2013年5月16日（東京、参加者：15名）

2013年度第2回委員会：2013年8月29日（東京、参加者：14名）

2013年度第3回委員会：2013年11月21日（新潟、参加者：13名）

2013年度第4回委員会：2014年3月13日（東京、参加者：16名）

2014年度第5回委員会：2014年6月26日（沖縄、参加者：11名）

第3回および第4回の委員会は、塩害の厳しい環境におかれた構造物や暴露試験場を視察することを目的に、それぞれ新潟県および沖縄県にて開催した。

② 今後の活動予定と終了予定期

同一の供試体を用いた共通暴露試験を今年度の冬期に実施予定。

委員会終了予定期は2015年5月であり、委員会報告書を作成の上、成果報告会を開催する予定である。

349 コンクリートにおける水の微視的挙動研究小委員会

(1) 委員会構成

委員長：大下英吉、幹事長：吉田亮、構成員数：32名、発足：2014年9月

(2) 活動目的

本研究小委員会では、セメント・コンクリートにとって必要不可欠である水に焦点を当て、水が媒介となって生じる各種現象の関連性や現象同士の相互作用を定性的かつ定量的に評価する。具体的には、

（1）従来の水に絡む現象の抽出と現象評価の調査と補足、（2）水を媒介とした現象同士の関連性と相互作用の整理、（3）欧米諸外国における核磁気共鳴（NMR）装置を用いた研究情報の収集、（4）上記（3）に主眼を置いた（1）、（2）の再整理を行う。

(3) 活動状況と今後の予定

① 現在までの活動

委員公募を行い、委員構成（案）が確定した。また、委員長、幹事長による意見交換によって、WG構成（案）が策定され、それに基づき主査・幹事候補者の選出が行われた。

② 今後の活動予定

委員構成（案）がコンクリート委員会常任委員会で審議、承認された後には速やかに（9月中を目処）、委員長、幹事長ならびに主査・幹事候補者による本小委員会における目的の確認、目的達成までのロードマップ、認識の共有ならびに今後の方針について議論を行う。

350 コンクリート構造物の品質確保小委員会

(1) 委員会構成

委員長：田村隆弘，副委員長：細田暁，幹事長：長井宏平，構成員数：32名，発足：2014年8月

(2) 活動目的

本小委員会では、橋梁、トンネル覆工等、コンクリート構造物の品質確保を達成するための技術の開発・整備・実装及び、品質確保マネジメントを実践的に行う過程で得られる知見の規準類・制度等へのフィードバックのあり方について議論する。東北地方の復興道路等でのコンクリート構造物の品質確保、山口県で運用されてきたひび割れ抑制システム（品質確保システムへと移行中）を二つの核として、実構造物の品質確保を実現するために有効なノウハウを現場から情報収集し体系化する。さらにこれらを全国へ展開するための具体的な方策を、建設マネジメントの分野の知見を適宜取り入れながら議論する。また、点検データの有効活用法について具体データを用いて分析を加える。

(3) 活動状況と今後の予定

① 現在までの活動

準備会と位置付けた幹事会を2014年8月に開催し、4つのWG設置と活動方針を議論した。WG名称は、復興道路品質確保システム研究WG、品質確保システム推進WG、品質確保マネジメント研究WG、点検データ活用WGとした。また、委員公募を8月まで行った。

② 今後の活動予定

9月末に幹事による東北地方の現地視察と、10月のキックオフシンポジウム（予定）を経て、各WGの活動を開始する予定である。東北地方と山口県を対象とするWGでは、それぞれ現地でのWG開催を中心とする予定としている。